

ゆいの会の将来を語り合う

～4月13日、平成26年度総会開催～



（写真左）総会終了後、
お花見会も開催されました

（写真右）総会風景



ハンセンボランティア ニュース

第30号

ゆい・結・YUI

2014年7月23日 発行

ゆいの会事務局

岡山市北区弓之町1-17 五藤ビル4階

山本勝敏法律事務所内

電話 (086) 234-1711

FAX (086) 234-8696

編集 則武 透



ゆいの会
ハンセンボランティア

巻頭言

平成26年6月9日に全療協の神明知宏会長が、2日後の6月11日に、全原協の併雄二会長が、ハンセン病市民学会総会と交流集会が開かれた草津の地で相次いで亡くなられました。そして、今年度のハンセン病問題対策協議会の翌日の21日、都内のTOC有明コンベンションホールで、お二人を忍ぶ会が開催され、大勢の方々が、ハンセン病問題の解決のために先頭に立ち頑張ってこられた在りし日のお二人に思いを馳せました。

お二人の逝去は、今後のハンセン病問題の解決のための運動を進めていく上で、大きな転換点となることでしょう。しかし、この問題に長年にわたり関わり、ともに闘ったきた方々は、ここで歩みを止めることはできないと、新たな決意をされたのではないのでしょうか。忍ぶ会の会場では、この日のために、報道カメラマンの宮崎賢さんが、これまでに蓄積してきたお二人の貴重な映像で構成・制作した新しい作品がながされました。お二人の在りし日の姿を改

め振り返り、涙をぬぐう方が少なくなかったそうです。

先月28日の当会の第13回ボランティア養成講座の終了後にも、特別にそのDVDを上映していただき、在りし日のお二人を偲ぶことができました。

当会には、今回、新たに、養成講座を修了され会員登録をされた13期生が加わりました。

私たちは、長島愛生園と邑久光明園の入所者の方々と、これまで10年を超えて交流を持つことができたことに感謝し、これからも偏見差別のない社会の構築を目指して共に歩んでいきたいと考えています。

平成26年7月 会長 近藤 剛



平成26年度

「ゆいの会」総会のご報告

4月13日（日）午前10時から2時間半ほどの日程で「ゆいの会」総会を開催しました。

「ゆいの会」も結成10年を経過し、活動の幅が広がる一方で参加ボランティアの固定化・負担感の増大など、より多くの会員参加によるボランティア活動の活性化とは逆の傾向が現れていることから、今後、どのようにボランティア活動を展開し、参加者を拡大し、活動を充実させていくかを考える時期にさしかかっています。そこで、現在、両園がどのような取り組みを検討し、「ゆいの会」にどのような活動を期待されているのかを語ってもらい、本年度以降の取り組み課題を明確化するために、愛生園から谷本看護部長に、光明園から畑野元園長にご出席頂き、それぞれの立場からお話し頂きました。

谷本看護部長からは「ゆいの会」が行っている「ふれあいボランティア」について、開催曜日の検討、園側での準備要員の確保・必要物品の補充、高齢化により部屋の中で過ごす入所者が非常に増えているが、職員は忙しくて話し相手になってももらえないため、ボランティアに話し相手になって欲しい

ことなどをお話し頂きました。畑野元園長からは、短期構想（入所者及び園のいずれもが活動可能時期）、中期構想（園が活動可能時期）、長期構想（活動主体が外部者に移行する時期）に分けて、短期・中期では入所者医療・看護・介護の充実向上、入所者の孤立防止・ふれあいの確保などが、長期では人権啓発体制の確立維持・永続化が課題となることをお話し頂きました。お話しを伺って、両園が「ゆいの会」に期待されるところは、「ふれあい」と「人権啓発」に集約されることが分かり、現在の活動はこの線に沿って行われていることから今後とも現在の「ゆいの会」活動を継続充実させて行くとともに、お二人の「園のニーズも大切だが、ボランティアがどんなことなら面白いと思うかが大切ではないか」（畑野元園長）、「入所者が外の人にレクチャアし伝える交流、入所者が学ぶ交流、入所者と一緒に楽しむ交流（音楽など）」が必要ではないか」（谷本看護部長）という発言を受けて、ボランティア会員が楽しめる活動にしていく必要性を強く感じました。質疑の中で総会参加会員から、「活動に参加できないのはなぜか

と考えたとき、横のつながりがいない人にとって登録し活動するには勇気がいる。会員間の交流を図ったり、養成講座同期生の横のつながりが作れたらいいなと思う。」との発言があり、「ゆいの会」会員相互の横のつながりという基本が不十分であったことが理解できました。

結論として、会員相互の横の連携を

取って足元を固めつつ、両園が「ゆいの会」に期待する「ふれあい」「人権啓発」に取り組むことができれば、より多くの会員が気軽にボランティア参加できる「ゆいの会」活動になるのではないかと改めて認識した有意義な総会でした。

（事務局長 山本勝敏）

ハンセンボランティアニュース

結・ゆい・Yui 第30号

— 目 次 —

1. 巻頭言..... 1
2. ゆいの会平成26年度総会報告..... 2
3. 第8回邑久光明園人権啓発展示会に参加..... 3
4. 第13回ハンセンボランティア養成講座..... 4～5
—第13期生11名が誕生—
5. 新企画「アイコが行く！ーボランティア見学記ー」
第1回 歴史館ボランティア編..... 6～7
6. 今月のこの人..... 7
この人.....12期生 松井康治
聴き手.....編集委員 児子愛子
7. 田村さんの「歴史館だより」..... 8
歴史館来館者予定
年会費納入のお願い
編集後記

第 8 回 邑久光明園人権啓発展示会に「ゆいの会」参加

2014年6月18日（水）から6月23日（月）まで、天満屋地下タウンアートスペースで邑久光明園友愛会（公益財団法人）が開催する第8回邑久光明園人権啓発展示会が行われ、「ゆいの会」も会場説明要員として参加しました。会場では、「かんたん解説」のパネルが並び、邑久光明園の紹介、隔離政策の写真、故郷に帰れない様子のパネルなどが展示されていました。この期間で、会場に足を運び、目を止めた人は1,012名でした。

私は、6月22日（日）の9時から14時30分まで参加しました。2名の職員方は、積極的にパネルを覗き込んでいる人に、声をかけ、資料がたくさん入った袋を渡していました。私は、障害者、大学生の方にパネルの解説をしながらゆっくりと観てもらいました。そのアンケートには、「解説があり、ハンセン病に対する理解が深まった。」とあり、うれしい思いをしました。

会場に、「こみよたん」登場です。「こみよたん」は、「親しみやすいイメージキャラクターがあれば、ハンセン病問題への理解への入り口になる」との願いで、邑久光明園に生息するタヌキのイメージで2013年に誕生しました。

「こみよたん」のお仕事は、「ハンセン病問題の歴史を広く伝え、偏見差別のない社会の実現に務め、入所者の社会参加を支援する。」です。また、好きな食べ物は、「あけぼの牡蛎、キャンディ」。特技は、「みんなを癒すこと」。趣味は、「カラオケ、昼寝、家庭菜園」です。その「こみよたん」が登場すると、会場は子供達の熱気で包まれました。空調バツリの関係で、50分間の命です。会場では子ども達と握手、記念撮影と大忙しの「こみよたん」でした。良く観察すると子ども達は、吸い寄せられるように、近づいて触る、握手する。若い女性は、一緒に記念撮影をする。男性は、遠くから眺めている。と反応はさまざまです。

この場所は、邑久光明園の臨時の情宣本部。次のステップは、いかに多くの方を邑久光明園に。その仕掛けとは……。といろいろと思いをめぐらした時間でした。

また、好評なので今年の12月の4日から10日までの人権週間に合わせて、パネル展を3日から8日まで天満屋地下で開催する予定です。



この天満屋地下タウンアートスペースは、一般市民の反応がよくわかり、ボランティアとして自分の立ち位置を考えさしてくれる場所でもありました。なお「こみよたん」の最新情報は、国立療養所邑久光明園内 公益財団法人邑久光明園友愛会のHPで見ることができます。

<http://www.komyotan.jp/friend/index.html>

（6期生 疋田邦男）

第13回

ハンセンボランティア養成講座が
開かれました！

第13回ハンセンボランティア養成講座が今年6月、開催されました。

今回は新聞記者さんの参加もあり、30名が受講、23名が修了され、このうち11名がボランティアとして登録されました。今回の養成講座ではグループ討論を取り入れた結果、参加者から活発な意見が寄せられました。各講座の主な感想をご紹介します。

【講座Ⅰ】 6月8日（日）

- ① 「ハンセン病とは」
講師／長島愛生園園長 藤田邦雄氏
- ② 「ハンセン病の歴史と将来構想について」
講師／ゆいの会会長 近藤 剛
- ③ 「歴史館の果たす役割について」
講師／愛生園歴史館学芸員 田村 朋久



藤田園長による説明風景

【講座Ⅱ】 6月14日（土）

- ④ 「ボランティアを始める前に」
講師／関西福祉大学社会福祉学部 助教 萬代由希子氏
- ⑤ 「ゆいの会ボランティア実践報告」
講師／ゆいの会ボランティア有志

・ 自分以外の様々な年齢の方がボランティアに対してどんな認識を持って

ハンセン病の事はあまりよく理解していなかったが、今回受講して理解できたと思う。

・ 正しい知識を学ぶことが、偏見や差別をなくす大きな基礎になると思います。

・ 「ハンセン病の歴史と人権について」の説明を聞き、このボランティアの重要性と意義を改めて認識しました。

・ 最も心に響いたのは、「非人間的な事実を次の世代に伝える責務がある」という点です。自分のできることをやりたいと感じました。

・ 来館者が増えていくことを知り、ハンセン病への関心を持っている方も多く、今後も若い世代の人を始め、来館者数が増えていけば世界遺産登録にもつながるのではないかと。



報告する 10 期生の藤原準三さん

いるのかについて知れたのが一番良かった事だと思います。

・ ボランティアの定義を専門的に話を聞いたのは新鮮でした。

・ ボランティアの実際をお聴きして、何ができるか、したいか改めて考えました。施設保存や園内整備など施設管理的なボランティアはないのでしょうか。

・ 実際ボランティアをされている方のお話は、とても興味深かったです。歴史館ボランティアにとっても興味を持ちました。

【講座Ⅲ】6月21日（土）

⑥「園内フィールドワーク」

案内役／学芸員 田村朋久

⑦「介護講座」

講師／看護部長 谷本りえ子氏

ほか

⑧「介護実践」

（車いす・アイマスク体験）



介護実践の様子

・ハンセン病により偏見や差別が起こり、亡くなってからも実家に帰ることができないことがとても悲しいことだと思った。

・ボランティアをする際のポイントが良く分かりました。施設案内はもとより、見学の際に必要な気遣いも分かりました。

・知らないことをいっぱい体験しました。知覚麻痺の方がやけどしないよう、日常生活で怪我しないよう、細かい気配りをされて介護にあたっていた。いらっしゃるのだなと、尊敬しました。

・目が見えない恐怖感が声掛けによって減少することが分かりました。

・介護する側、される側の両方を体験することで、注意しなければならいことなど気づかされることがたくさんありました。



【講座Ⅳ】6月28日（土）

⑨「入所者との交流」

講師／長島愛生園自治会長

中尾伸治氏

⑩「ゆいの会オリエンテーション」

⑪「交流会」



オリエンテーション風景

・淡々とお話されていましたが、実際のご苦労は想像を超えるものだろうと感じました。「知らない」「関係ない」と目を向けなかったことが、差別や偏見を拡大させてきたのだと思います。

・歴史館の資料や歴史回廊の建築物以上に生の声は心に響きました。

・夢や可能性すべて失い、亡くなられた多くの方の気持ちに報いるためにも、多くの方に伝えたい、世界遺産

ゆいの会ブログ（ときどき更新中！）

当会の活動のほか、ハンセン病問題に関する最新の情報も随時掲載しています。

<http://hansenvolunteer.blog.shinobi.jp/>

☆メーリングリストのご案内☆

皆様の情報交換のために、メーリングリストを設けています。ぜひご参加下さい。

ご参加希望の方は、ゆいの会事務局までご連絡ください。

（連絡先は1面に記載されております。）



登録をと、気高いお心持に頭が下がる思いです。

・内容の濃いボランティア養成講座で良かったと思います。

・私ができそうなことを何か見つけて、極力参加したいと思っています。

新企画 「アイコが行く!」 ボランティア見学記」 第1回 歴史館ボランティア編

ゆいの会では、歴史館ボラ、傾聴ボラ、ふれあいボラ、文芸ボラ、畑耕し隊、夏祭りなどのイベントのお手伝い、個別のニーズへの対応(付き添いボラ)などなど、会員の方の関心や得意分野をそれぞれ活かし、様々なボランティア活動をしています。

これから活動への参加を検討中で、どのボランティアに参加するか思案中の方、実際のゆいの会の活動の現場はどうなっているのか、その様子をみてみたいという人に、この度、私、ゆいニュースの記者アイコがその現場をレポートすることにしました。第1回は、世界遺産登録に向けた活動でも注目されている今話題の現場、愛生園歴史館や歴史回廊での案内ボランティアについてご紹介します。

それでは、ドキドキの初レポート、現場からご報告します!

(編集委員 兒子愛子)



来館者へ説明する疋田さん

③ 入所者の講話でそれぞれ1時間の3時間コースなのだそうです。

本日の案内担当は、歴史館の学芸員田村さんと事務員の森さん、ゆいの会6期生の疋田邦男さんです。

開始30分前に歴史館事務所で分担の打ち合わせが始まりました。本日は100人を超える来館者ですので、全体を2グループに分かれていただき、田村さんが歴史回廊担当、その間グループをさらに2グループに分け、歴史館内の映像室を森さんがビデオ視聴担当、疋田さんがハンセン病パネル解説を担当するという分担でした。

疋田さんのパネル説明が始まると、皆さん真剣に耳を傾けられ、質疑に入ると、様々な質問が疋田さんに投げかけられました。ひとつ一つ、丁寧に答えておられました。後で伺いましたが、皆さん愛

生園に向かうバスの中で、DVDを視聴したり、資料を配布されていたりと、事前学習がバッチリだったようです。また中には、以前にも研修旅行で園を訪れたことがあると言われた方もありました。そして、展示室の見学中も、見学者同士で意見を交わしあい、その中で生まれた疑問を疋田さんに尋ねられている方もおられました。

2時間弱の間に、展示室での全体への説明、見学中の個別の質問への対応を都合4回、時間配分やほかのグループの動きに注意しながら早すぎず、遅すぎずのペースで必要な内容を組み込んでお話ししておられました。見学後の講話の時間が決まっているということもあり、見学のみの講話がない団体でも、研修旅行などは離園後の予定が決まっている場合も多く、平素から説明時間や園内見学での移動時間には注意を配っておられるとのことでした。

案内終了後、疋田さんに歴史館ボランティアについて、お話を伺いました。

◆何時も同じような案内をしているのですか

—— 疋田さんは、説明の対象者によつ

て少し、案内の仕方を変えておられるそうです。例えば、学生さんには、Q&A方式を用いて、問題意識や思考を深めてもらう。また、大人の来園者の方には、自由時間をできるだけ確保し、それぞれの方の質問や関心に対応していかれるとのことでした。

◆他のボランティアさんは、どのような工夫をされているのですか

—— 最初に、訪問の目的を聞きその目的に合わせて、基本内容に強弱をつけて案内の内容を変えることもあるようです。また、差別や人権侵害はこのハンセン病特有の後遺症からくるもので、ハンセン病そのものの内容の理解を置いて頂くことに重点を置くこともあるようです。そして、学校の生徒さんたちが学習に来た場合には、展示室のジオラマの前で、問題発見型の説明をされることもあるようです。

◆最後に、質問に答えるためには、知識と経験が必要だと思いましたが

—— 質問に対して必ずその場で返答ができることが必要ではなく、市民の立場でハンセン病問題の「なぜ?」や「どうして?」を共有することで、ゆいの会が目指している「ハンセン病問題の啓発」になるのではないかとのことでした。なお、歴史館ボランティアの基本的な内容は、マニュアルが用意されているそうです。

アイコの一言

昨年に、世界遺産化への報道がされてから、今までの大人数の来園者への予約対応だけでなく、少人数で立ち寄られた予約外の来園者の方が多くなっているようです。取材時にも数組の来館者があり、ゆつくりと時間をかけて歴史館を見学し、その後園内の歴史回廊へと出ていかれました。ちよつと立

ち寄られた見学者を笑顔で迎えてくれるボランティアさんの存在の必要性が、高まっていることを実感しました。

まずは、先輩ボランティアさんの活動を見学したり、マニュアルを読んだりしながら、歴史館で過ごしてみるのはいかがでしょうか？

正田さん、ご協力ありがとうございました。

次回は、ふれあいボランティアの見学に行く予定です。お楽しみに！

今月この人

12期生 松井康治さん

この人：12期生・松井康治
聴き手：編集委員・兒子愛子



養成講座で報告する
松井さん

だのをきっかけに配属先の閉鎖が決まり退職、その後就職した会社がいわゆるブラック企業で、悩んでいたところ、全体の先生に「知人が長島愛生園で欠員が出たって言うてるから、履歴書を出してみろ。」と言われ、本当かどうかも分からない上に、介護なんかしたくないなと思いつながら、履歴書を提出。平成11年6月から福祉課作業係として採用され、平成23年3月まで勤務していました。

Q2：ゆいの会への参加のきっかけを教えてください。

愛生園に勤務していた当時、年々予算に関する締め付けが厳しくなり、平成21年の民主党への政権交代から、ぐっとハンセン病療養所に関する予算が厳しくなっていた印象を持っています。超過勤務の削減が始まり、（交代勤務や、食事を配る時間の関係でどうしても超過勤務が必要でしたが）、定年退職者の補充が行われないなど、人員が減っていき、出来なくなった仕事はアウトソーシングされていきました。私が配属されていた部署で行っていた草刈りなどの環境整備も末端の職員が知らない間に外注に出ることが多くなり、このままでは、入所者の方々が生きてこられた証が残らないのではないかと、と感じるようになり、愛生園の事情や、ハンセン病の知識のある私が関われば良いなと思い、起業して退職し、入会しました。

Q2: ゆいの会への参加のきっかけを教えてください。

Q3：現在、主にふれあいボランティアとして活動しておられますが、活動状況やご感想をお願いします。

当時、一番やりくりが苦勞されていたのが「ふれあいボランティア」でしたので、参加するようになりました。歴史館とふれあいを月に各一回が目標でしたが、ふれあいボラが平日で人員のやりくりが難しく、開店休

業の期間は、そちらばかり参加してしまい、この一年でその目標が達成できたのは一度だけでした。

ふれあいボラでは、私が元職員ということで、入所者の方も話しやすいように、一緒に参加する会員の方から、こんなに話が盛り上がったことがなかったなどと言われたので、橋渡し役になれたら良いなと思っています。そして、社長がボランティアでできるように、会社の業績を上げないといけません（笑）

Q4：本業に、ボランティアに、お忙しくされていると思いますが、ご趣味は？

番は自動車ですね、昭和45年式のボンコツを後生大事にしています。バイクも好きですし、釣りとか、アウトドアも好きです。ギターを弾いてみたり、古いカメラが何台も有ったり：一番人に見せられないのは飼った猫と戯れているところです。

Q5：最後に、ゆいの会について一言お願いします。

すっかりした基盤のある団体です
会長と事務局長と編集長の掛け合いが
大好きです（笑）

ポランティアゆえ、熱い気持ちのある方も多数おられますので、園の要望以上に盛り上がる事があります。ブレーキの掛け方でポランティアならではの難しい面もあると感じています。

松井さん、ありがとうございます！
これからのご活躍も期待しています！
よろしくお願いします。

今月の「この人」は、ふれあいボランティアを中心に活動され、今年度からは運営委員としても活躍中の12期生の松井康治さんです。

Q1：自己紹介をお願いします。

昭和53年10月11日生まれ 建築系の
高校を卒業後、就職するも消費税5%
への増税で建築関係の需要が冷え込ん

歴史館来館者予定(8月～)

ゆいニュース発行時点で案内ボランティアに対応依頼が来ている団体です。

8月2日(土)	人数未定 29名	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
8月3日(日)	20名	13:00～歴史館	14:00～歴史回廊見学
8月9日(土)	人数未定 20名	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
8月22日(金)	96名	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
8月23日(土)	人数未定 40名	10:30～13:00	歴史館、歴史回廊見学
8月24日(日)	20名	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
8月25日(月)	34名	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
8月26日(火)	20名	13:00～歴史館	14:00～歴史回廊見学
8月30日(土)	人数未定 40名	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
9月6日(土)	人数未定	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
9月7日(日)	0名	13:00～歴史館	14:00～歴史回廊見学
9月12日(金)	131名	9:45～11:50	歴史館、歴史回廊見学
9月13日(土)	人数未定 50名	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
9月14日(日)	20名	14:00～歴史館	15:00～歴史回廊見学
9月15日(月)	15名	13:00～歴史館	14:00～歴史回廊見学
9月20日(土)	人数未定	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
9月25日(木)	30名	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
9月26日(金)	15名	13:30～歴史館	14:15～歴史回廊見学
9月27日(土)	人数未定 30名	9:50～歴史館	11:00～歴史回廊見学
		10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
		時間未定	

案内ボランティアを始めたい方、興味はあっても難しそう・・・とためらっておられる方、他のボランティアの方の案内を見学していただくことも可能です。ご相談ください。

※予定は追加変更の可能性があります。詳しくは、ゆいの会ボランティアメーリングリストにて(登録については事務局にお尋ねください)。

おくやみ

12期生の松本梓さんが今年1月、
急逝されました。
ご冥福をお祈りいたします。



後編 記集

69年前の6月29日は岡山空襲の日。死者1725名、家屋焼失2万5196戸、家を失った人数は10万4606名にも達しました。愛する家族が死亡し、自宅や学校を失い、そして国宝だった岡山城が焼け落ちたときの岡山市民の落胆。想像を絶するものがあります。その1ヶ月後には広島と長崎に原子爆弾が投下されます。このように、岡山も広島もアメリカによる無差別攻撃により、甚大な被害を蒙りました。

しかし、15年戦争において、日本は単に被害者だったわけではありません。空襲による無差別攻撃という点では、既に1937年に日本は中国の諸都市を空爆して多数の一般市民を殺傷しました。日本はアジアの国々に対しては専ら加害者であったことも決して忘れてはなりません。

今、日本の平和を巡る状況は危機的です。集団的自衛権の名の下に、超えてはならない一線を越えようとしています。尖閣諸島や竹島問題では、中国や韓国への敵愾心を煽るような報道もあります。

有名なヴァイツゼッカー西ドイツ大統領のドイツ敗戦40周年の西ドイツ国会での演説は次のように結ばれています。「ヒトラーはいつも、偏見と憎悪とをかきたて続けることに腐心しておりました。若い人にお願いしたい。他の人々に対する敵意や憎悪に駆り立てられることのないようにしていただきたい。…若い人たちには、たがいに敵対するのではなく、たがいに手を取り合って生きていくことを学んでいただきたい。…自由を尊重しよう。平和のために尽力しよう。公正をよりどころにしよう。正義については内面の規範に従おう。今日、5月8日に際し、能う限り真実を直視しようではありませんか。」

(編集長 則武 透)

田村さんの

「歴史館だより」

みなさまお世話になっております。

去年はハンセン病療養所を世界遺産に、という運動を立ち上げ、マスコミの方々に取り上げていただきました。そのかいもありまして、歴史館には今年もたくさんの見学者が訪れてくださっており、現時点で昨年度比20%増となっています。

また、今年より新たな取り組みとして長島愛生園の見学バスを運行させることになりました。これは、交通の便が良くない療養所に、学生さんやご年配の方、県外の方など、車を持たない方々にもハンセン病問題に触れていただきたい、との想いから実現しました。当面は毎週土曜日、午前9時30分JR 邑久駅発で運行いたします。この対応につきましてもゆいの会の皆様にご協力をお願いすることになります。なにとぞご協力をよろしくお願いします。

～年会費納入のお願い～

ゆいの会の活動は、会員からの年会費(年間2,000円)と、協力者の方からの寄付金によって支えられています。

<振込先>

◆ゆうちょ銀行からの振込は
記号 15490/番号 33536171

◆他の金融機関からの振込は
金融機関コード
9900/店番 548
預金種目 普通
店名 五四八(ゴヨンハチ)店
口座番号 3353617
※振込手数料は各自ご負担下さい。

会員の皆様のご協力をお願いいたします。